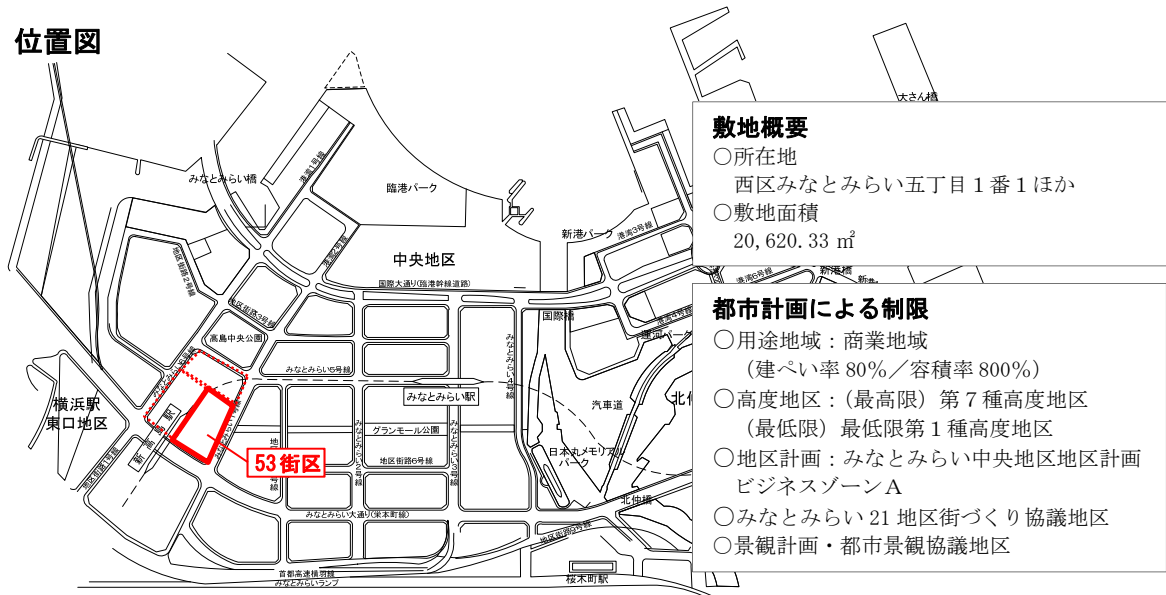


1 位置図



2 事業予定者の提案概要

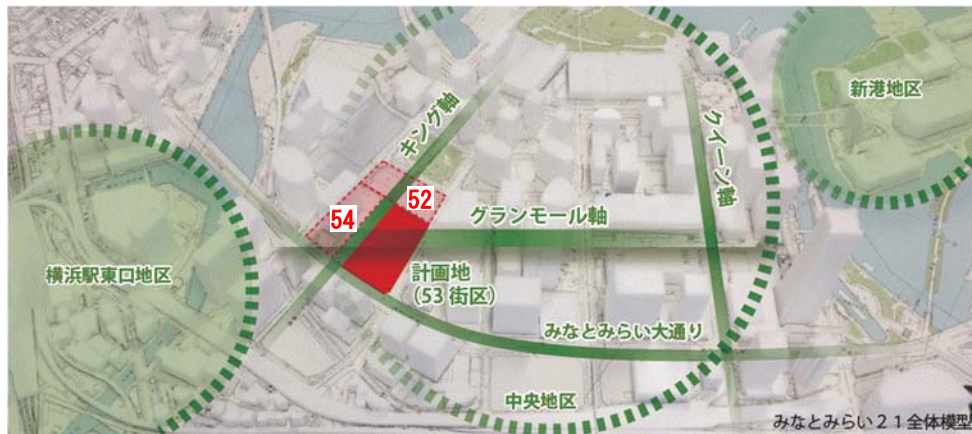
- (1) 事業予定者 (市有地の開発事業者公募により H31.3 決定)
 (仮)みなとみらい 21 中央地区 53 街区開発事業者 共同企業体
 (代表企業) 株式会社大林組
 (構成企業) ヤマハ株式会社、京浜急行電鉄株式会社、日鉄興和不動産株式会社
- (2) 建物概要

	WEST 棟	EAST 棟
延べ面積	182,825 m ²	
高さ	153m	85.5m
階数	地上 28 階 塔屋 2 階	地上 15 階 塔屋 2 階
フロア構成	25-28 階 ホテル 9-24 階 賃貸オフィス 5-8 階 自社オフィス 4 階 全体共用 3 階 カンファレンス、 小ホール等にぎわい施設 2 階 店舗、オープンアトリウム 1 階 駐車場、店舗、 オープンアトリウム	4-15 階 オフィス 3 階 オープンインノベーション スペース、オフィス、店舗 2 階 店舗 1 階 駐車場、店舗



※建物概要及びイメージパースは、事業提案時のものであり、今後変更する可能性があります。

3 街区の位置づけと主な協議事項



<位置づけ>

<主な協議事項>

横浜駅東口地区からほど近い位置に立地し、みなとみらい21中央地区の骨格となるみなとみらい大通り沿道地区と、都市軸であるキング軸、グランモール軸とが交わる街区です。

みなとみらい21地区の主要なキング軸（地区施設：幅員15m以上）が54街区側で整備される予定であり、53街区側も一体的な整備が求められます。

53街区は、隣接する52、54街区とは元々ひとつの街区であり、52～54街区全体でのビル群としての造形や眺望に配慮することを求めています。また、52～54街区の中で最も大きな街区であることから、象徴的な街区となることが望まれます。

「みなとみらい21中央地区地区計画（建築物等の整備の方針）」及び「みなとみらい21街づくり基本協定（建築物等の基準）」において、重要な都市軸上の当街区には、積極的に超高層の建物を誘導し、街のランドマークとすることが位置づけられています。

- 低層部の回遊性
- 都市軸に沿った賑わいづくり
- 緑による空間演出

- 52～54街区全体での群造形
- 象徴性のある「デザイン」「高さ」
- 魅力あるスカイラインの形成
- コモンスペースなどの連担性
- 周辺と調和した街並み景観
- 夜間景観

4 隣接する52街区と54街区の状況

- ・52街区：公募売却する予定（2020年度中に審査予定）
- ・54街区：2020年2月しゅん工予定（地上19階、高さ約100m）

5 今後のスケジュール

令和2年（2020年）3月まで	基本計画協定締結後、土地の売買契約
令和2年（2020年）12月	着工
令和5年（2023年）11月	しゅん工予定